

非営利法人ニュース

2018年
3月号
Vol. 62



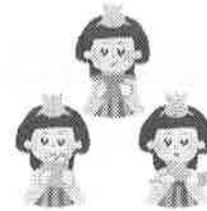
発行 公益総研 非営利法人総合研究所
東京都港区新橋6-7-9 新橋アイランドビル
TEL 03-5405-1811 / FAX 03-5405-1814
編集協力 (特非)国際ボランティア事業団・(公財)公益推進協会・NPO法人設立運営センター

★★ お勧めセミナー情報 ★★

[1] NPOが得か？社団が得か？法人設立セミナー

*どの法人格が向いているのか、メリットとデメリット・税制の違いなどを説明

- 講師 福島 達也
(田園調布学園大学講師・(特非)国際ボランティア事業団 理事長)
- 日時 2018年5月16日(水)
午後2:00~4:00(受付1:45~)
- 会場 東京都港区新橋6-7-9 新橋アイランドビル1階会議室
(新橋駅烏森口より徒歩8分・御成門駅より徒歩5分)
- 定員 先着8名まで 徹底指導(最少催行人数3名)
- 受講料 3,000円(1名分・税・テキスト代含む) *事前振込



◎情報満載！今月のもくじ◎

セミナー情報	1
遺贈の窓口情報	1
事務代行のご提案	1
非営利法人関連情報	2,3
CEOコラム	4
編集後記	4

★★遺贈の窓口からのお知らせ★★

●相続する人がいない、または相続人が放棄したお金は、すべて国に没収となります。その額、毎年400億円を超えています。
しかし、遺産を社会的に有意義な事業に使うってほしい、という気持ちを遺言書に残しておく、法律にもとづく法定相続に関係なく、ご自分の意思を生かすことができます。この遺言による財産寄付を「遺贈」といいます。
公益財団法人公益推進協会では、「自分の名前をつけた基金」を作る遺贈によるご寄付を承っております。死後、ご自分の財産を自分の名前の基金に変え、自分の考える公益的な社会貢献活動に役立ててほしいとお考えでしたら、ぜひ、遺言書を作成し、受取先を「公益財団法人公益推進協会」とご指定ください。
また、公益財団法人公益推進協会では、金融資産をはじめ土地・家屋などの不動産や株式、美術品などのご遺贈も承っております。
そして、一番大事なことですが、基金に関する詳細は、すべて内閣府に報告され、基金の保全が図られます。

☆セミナー申込方法☆

[1] NPOが得か？社団が得か？法人設立セミナー

ー特定非営利活動法人
国際ボランティア事業団
TEL 03-5405-1813
FAX 03-5405-1814
メール npoinfo@iva.jp

■必要事項

- ①参加日
- ②参加者氏名
- ③団体名
- ④案内送付先郵便番号、住所
- ⑤電話
- ⑥ファックス
- ⑦メールアドレス

以上

職員ゼロ時代ついに到来か？ 公益総研から事務代行のご提案！

- 公益総研 事務センターは、法務や税務のスペシャリストでありながら、低価格で、公益法人、NPO、NGO、学会、研究会、各種団体等の事務局運営を代行いたします。もう事務局の件数や家賃等の心配はいりません。
- わざわざ日々の会計業務もすべて含まれておりますので、わざわざ月々何万円もかけて税理士等に毎月の記帳会計を依頼する必要もありません。
- 運営に欠かせない学会誌や広報誌、名簿などの制作、WEBサイトの制作なども同時に依頼いただけますので、迅速かつ効率的な事務局運営が可能です。
- 登記する場所が必要な場合は、弊社内に登記することもできます。登記可能な都市は、東京都港区・大阪府大阪市福島区・福岡県福岡市博多区などです。

☆遺贈の窓口からのお知らせ

公益財団法人公益推進協会
TEL 03-5425-4201
FAX 03-5405-1814
メール info@kosuikyo.com
HP http://kosuikyo.com

☆事務代行のご連絡先☆

公益総研株式会社
TEL 03-5405-1811
FAX 03-5405-1814
メール: souken@iva.jp
HP: http://www.iva.jp/nposouken/

★非営利法人関連情報★

ご長寿アイドル再結成 新潟

シルバー世代よ諦めるな やりたいことまだあるだろうー。お年寄りへの応援ソングを踊りながらノリノリで歌うのは、平均年齢76.3歳の「ご長寿アイドルグループ「笑年隊（しょうねんたい）」。メンバーの死去や病気でしばらく活動を休止していたが、昨年12月に新メンバーを迎え再結成した。体力を消耗するステージは「命がけ」だが、「歌や笑いを通じてお年寄りを元気に」とい思いを胸に、今春のCDデビューに向け練習真っ最中だ。

（毎日新聞 2月22日）

避難所運営を学ぶ疑似体験ゲーム制作

山形県寒河江市のNPO法人「やまがた絆の架け橋ネットワーク」などが、大災害時の避難所運営を疑似体験するカードゲーム「HUG（はぐ）」の山形県版（愛称・やまはぐ。）を制作した。雪国の厳冬期に起きた災害を前提に構成。避難者に見立てたカードに山形ゆかりの名前を付けるなど、親しみやすいように工夫した。災害への対応力を高めてもらうため、広く活用を呼び掛けている。HUG山形県版は、地震災害を前提にした「内陸版」と、津波被害も想定した「庄内版」の2パターン。同法人と東北公益文科大学（酒田市）の武田真理子教授（社会政策）のゼミが共同で制作した。静岡県のアナログ版などをベースに、宮城県南三陸町の住民から聞き取った東日本大震災発生時の避難所の状況も内容に反映させた。ゲームは6～8人が1組となり、1枚ずつ読み上げられる「避難者カード」を個々の事情に応じて、避難所の平面図にしっかりと適切に配置するかを考えたリ、「支援物資が届いたが、人数分はない」「テレビ局から取材依頼がきた」といったさまざまな出来事への対応を話し合ったりする。

（河北新報 2月22日）

相続制度見直し 配偶者の権利拡大か

遺産相続の制度について法制審議會在、民法改正の要綱をまとめ、法相に答申した。遺産分割の際、配偶者が自宅に住み続けることができる「居住権」の新設が柱の一つだ。居住権を設定すれば、所有者が変わっても住むことができる。遺産分割は、亡くなった家族が持ついた不動産や預貯金を分ける制度だ。妻と子どもが相続人の場合、2分の1ずつ分割する。現行法では、自宅以外にめましい遺産がなければ、遺産分割のために自宅の売却を迫られるケースがある。居住権の新設はこうした事態を避けるのが狙いだ。配偶者は終身または一定期間居住できる。自宅の評価額が仮に3千万円だったとする。このうち配偶者が得る居住権は1千万円、子どもに与える所有権は2千万円などと算定される。配偶者はその分、預貯金などの遺産を多く相続でき、生活資金の確保にもつながるという。要綱はめまかに、結婚して20年以上の夫婦の場合、配偶者に生前贈与された住居を遺産分割の対象にしない仕組みも盛り込んだ。平均寿命が延び、伴侶を亡くしてから長く生きる人は多い。高齢であれば、新たな住居を探すのは容易ではない。高い収入も期待できない。配偶者を保護するこれらの制度は、時代に即した妥当な内容といえるだろう。課題も多い。法律婚の配偶者が優遇される一方で、事実婚のパートナーは対象になっていないことなどである。高齢になってからの再婚は子どもらに反対され、事実婚を選ぶ人も少なくない。改姓を避けるため婚姻届を出さない夫婦や、同性のパートナーと暮らす人もいる。要綱は法案化され今国会に提出される見通しだ。夫婦親や家族観は時代とともに変化し、民法は何度も改正されてきた。豊かな長寿社会を築く議論を続けたい。

（西日本新聞 2月26日）



* 内容に関しては、問合せ先に直接問合せをお願いします

20億円寄付の使途に賛否両論 青森市

青森市内に住む個人から昨年末、市に寄付された20億円の使途に注目が集まっている。寄付者の意向に沿って、体育施設（アリーナ）の整備や食育事業に充てたいとする小野寺晃彦市長の方針に対し、市民の間には「善意を尊重すべき」「ハコモノの維持費のツケが回ってくるのではないか」など、賛否両論が渦巻く。28日から始まる定例市議会一般質問でも議論が交わされるものとみられる。市によると、昨年12月26日に市内の個人から短命市返上を目指し市民の健康作りとスポーツ振興に役立ててほしい、との趣旨で20億円の寄付の申し出があった。本人の意向で氏名や年齢、性別、職業などは公表されていない。

（産経新聞 2月25日）

高校生に居場所提供 郡山のNPO

NPO法人ビーンズふくしま（郡山市）は22日、同市大町の複合商業ビルK1K'B（キックビー）に、高校生が自由な時間を過ごせるフリースペース「すきまカフェ」を開設した。3月まで計4回開所し、若者の過ごす場を提供する。利用無料で、申し込み不要。同NPOが行ったアンケートでは、同市の高校生600人のうち30%以上が放課後の時間を1人で過ごし、「ゆったりできる場所がほしい」との意見があったという。同NPOは赤い羽根共同募金の助成を受け、勉強や読書、飲食などができるフリースペースとして開設した。次回以降は体験交流活動も行う。同NPOは、利用する高校生らのニーズを把握し、居場所づくりなどに役立てる考え。初日は、若者がゲームなどを楽しむ姿が見られた。

（福島民友 2月24日）

空き家を障害者グループホームに

大阪府南部の泉北ニュータウン（NT）に来月、戸建ての空き家を改修した障害者向けグループホームがオープンする。昨年、後開き50周年を迎えた泉北NTでは増加する空き家対策が課題になっているが、こうした改修は初めてとみられる。開所に携ったNPO法人は「街の再生に向けた新たな解決策になれば」と意気込んでいる。泉北NTの大部分を占める堺市によると、地区には戸建て住宅が約1万6700戸あり、うち空き家は768戸（2016年3月末時点）で4.6%を占める。08年は2.5%だった。グループホームを開設するのは空き家率が5.99%を超える堺市南区榎塚台。建物は築43年の鉄骨2階建てで延べ約150平方メートル。地元のNPO法人「すまいるセンター」が市外に住む所有者との間で定期借地権契約などを結んだ。法人代表理事で1級建築士の西上孔雄（にしがみよしお）さん（50）が増築と耐震補強を申し出た。現在、車椅子用スロープなどの設置工事もほぼ終わり、3月上旬に入居を始める。コスモスによると、入居者は老朽化で取り壊し予定の泉北NTの団地の住民や、高齢でエレベーターのない団地での生活が難しくなった人たち。西上さんは「空き家が再生して社会の役に立ち、所有者は家賃収入も得られる」とメリットを強調。コスモス職員で施設管理者の前原由里子さん（52）は「身寄りのない高齢者も家庭的に過ごせる場が欲しかった。6人が通う作業所も近く、住み慣れた街で長く暮らしてもらえる。同様の施設をもっと増やしたい」と話している。

（毎日新聞 2月24日）



寄付で防犯カメラ購入補助 札幌市

札幌市は新年度、希望する町内会に対し、防犯カメラの購入費用を補助する事業を始める。犯罪の発生を抑え、外国人観光客らに「安全・安心なまち」をPRする狙いで、2020年度までの3年間で計2千台分を補助する。併せて、市は大きな公園や道路など屋外の公共空間に防犯カメラを計1500台設置する。市によると、防犯カメラの購入費用の補助は道内の自治体では初。市内の実業家が、公共空間への防犯カメラ設置を求めて計4億円を市に寄付する意向を示しており、市はこの寄付金を3年間で設置する全2500台分の財源に充てる。補助を予定しているのは、24時間以上連続して録画できる小型カメラ。補助額は1台16万円が上限で、1町内会が複数台を申請できる。申請は5月から受け付け、18年度は200台分の補助を見込む。

（北海道新聞 2月26日）

子どもシェルター開設半年で満員に

虐待などを受け、親のいる家に帰ることができない子どもたちの一時避難所「子どもシェルター」が昨年9月、兵庫県内で初めて阪神間に開設された。おおむね15～19歳の女子が対象だが、6人の定員はすでに埋まっている。入所の要望を断ることもあるといい、運営するNPO関係者は「深刻な状況」と話す。シェルターは、同法人副代表で弁護士の間我さんらの呼びかけで昨年9月1日に開設された。民間の一軒家を借り、「こころのハウス」と名付けた。4畳半の個室が6室あり、各部屋にはベッドと布団、机を備え、1日3食を提供する。6人のスタッフが交代で24時間常駐している。シェルターの場所は子どもたちの安全を考え、公表していない。費用はすべて無料で、運営費は県からの支援や一般からの寄付でまかなっている。昨年9月末以降、入居が相次ぎ、11月末ごろには定員いっぱい。年明けには入居の要望を断らざるを得ないときもあった。当初、入居期間は3カ月程度を目安にしたが、5カ月になるとうするケースもあるという。間我さんは「保護が必要なお子がいることが前提だったが、状況は想像以上に深刻。シェルターができる前まで、この子たちはどうしていたのか」と話す。

（朝日新聞 2月26日）

外国人の入学準備 NPOが説明 出雲

日本の小中学校に入学する子どもがいる外国人保護者を対象にした学校説明会が24日、出雲市役所で開かれ、約20人が学校の仕組みや学校生活などの説明に耳を傾けた。外国人を支援する同市のNPO法人「エスペランサ」が企画。入学する際の疑問や不安を解消し、相談場所などを知ってもらおうと、2015年度から行っている。説明会では同市教委学校教育課の担当者が、同市の小中学校の特徴として、「校長が認めた場合は、学校で日本語の指導を受けることができる」などと紹介。給食でアレルギーや宗教上の理由で食べられない食材があれば、学校に届け出る必要があることも説明した。同NPOのスタッフも、ポルトガル語などで記された就学ガイドブックを配り、学校を休む際は、保護者が学校に連絡する仕組みを伝えた。また、会場にはランドセルや連絡ノートなどが展示され、保護者らは手に取り、通学に必要な物品を確かめていた。4月から長女が同市立塩治小に通うブラジル人の主婦リバス・エリザンドラさん（40）は「ランドセルや雑巾など、準備する物がなかったよかった。娘も小学校に通うのを楽しみにしている」と話していた。

（読売新聞 2月25日）

女優がセクハラ被害者支援基金に寄付

『ハリー・ポッター』シリーズで知られる英女優のエマ・ワトソンが、セクシャルハラスメントの被害者のために設立された基金に、100万ポンド（約1億5000万円）を寄付した。Daily Mail OnlineやOOFLEXなどが報じている。エマがセクハラ撲滅を願う公開書簡とともに約1億5000万円を寄付したのは、ジャスティス&イコーリティ・ファンド。同基金には、同じくイギリス出身のトム・ヒドルストンとキーラ・ナイトレイもそれぞれ1万ポンド（約150万円）を寄付している。他にも、『美女と野獣』のエマ・トンプソンやググンバータロー、テレビシリーズ『ドクター・フー』のジョディ・ウィッター、さらに映画『ミレニアム』シリーズで知られるノオミ・ラバズも寄付を行っている。現在27歳のエマは、2001年から2011年にかけて、8本の『ハリー・ポッター』作品でハーマイオニー・グレンジャーを演じた。彼女はハリウッドのプロデューサーで、複数の女優からセクハラ被害を受けているハーヴェイ・ワインスタインについて、最初に声を発した女優だった。

（niftyニュース 2月20日）

シェアハウス経営で「破産続出」警戒

女性専用シェアハウス「かぼちゃの馬車」を運営する不動産会社スマートデイズ（東京）が物件所有者への賃借料の支払いを突然停止し、問題に詳しいNPOへの相談が急増していることが15日までに分かった。所有者は1億円以上を借りている人が大半で、NPOは自己破産者が続出する恐れがあると警戒する。NPO法人が運営するサプリース問題解決センター（東京）ではスマートデイズに関する相談が既に100件を超えた。昨年は多くて月10件程度だった。物件を複数所有して借金が数百万円に膨らみ、自己破産をほのめかした人もいた。サプリースは、物件を所有者から一括して借り上げ、一定の賃借料を保証する仕組み。スマートデイズは首都圏を中心に1万室以上を展開するが、資金繰りが悪化し、賃借料を支払えなくなった。所有者は700人程度とみられることから、大谷昭二センター長は「自己破産者が数百人出ておかしくない」と懸念している。

（日本経済新聞 2月15日）

埼玉県がAI活用で縁結び事業始める？

埼玉県が結婚を希望する未婚者の出会いの機会を創出するため、人工知能（AI）を活用したマッチング事業に乗り出すことが7日、分かった。市町村や企業、NPO法人などで構成する協議会を立ち上げ、県内全域で婚活支援事業を展開する。AIを使って最適な相手を紹介し、結婚を後押しすることで少子化の解消につなげる。平成30年度予算案に関連経費を計上する。これまで県商工会議所やNPO法人などが主催する婚活イベントや職場の交流事業を展開する企業などに補助金を出し、未婚者の結婚を後押ししてきた。30年度の新規事業として、AIを活用したマッチングシステムを開発し、自分に合った相手を紹介する婚活支援事業を始める。まずは30市町村の少子化対策担当や婚活支援企業、県内に事業所や工場がある企業、NPO法人などと協議会を立ち上げる。さまざまな企業や団体に参加してもらうことで、マッチングシステムへの登録者数を増やし、結婚支援事業を県内全域で展開できる規模に育て上げる。27年の国勢調査では30～34歳の男性の2人に1人、女性の3人に1人が未婚で、未婚率は年々上昇しており、県内でも少子高齢化が懸念されている。県はAIを活用したマッチングシステムの導入で、未婚者の出会いをサポートし、少子化に歯止めをかけたい考えだ。

（産経新聞 2月8日）



60代から輝くコンサートが15周年 横浜

声楽は65歳から、器楽は60歳から。ジャンルはクラシカルな音楽——。こんな参加条件のコンサート「65歳からのアートルाइフ」が、横浜市青葉区で開かれ、今年で15周年を迎える。同区在住の声楽家がNPO法人を立ち上げ、歌の指導をしながら続けてきた。25日には、90代を含む約40人が出演する記念コンサートを企画している。声楽家の酒井沃子さんがシニア世代の合唱を指導していた際、個別レッスンもしたところ、それぞれが生き生きと、楽しみながら上達していく姿を見た。「発表の場としてコンサートをやろう」。酒井さんは行動に移す。2003年、NPO法人「65歳からのアートルाइフ推進会議」を設立。同区でクラシック音楽を主目的に設計されたコンサートホールを会場に、著名な声楽家を特別講師委員としても迎えた。

口コミで出演者が増えていった。県内はもとより、首都圏のほか、東北や関西地方からもやって来た。これまでに延べ約1400人がステージに立った。

（朝日新聞 2月20日）

コープこうべがNPOに店舗無償貸し出し

コープこうべは23日、兵庫県尼崎市にある「コープ園田」を改装開業し、地域住民の活動拠点として貸し出すスペースを公開した。NPO法人や社会福祉協議会など14団体が使用する予定で、市民講座や健康相談会などの活動を展開していく。コープこうべは市民が集う場として店舗の一部を開放し、物販にもつなげることを目指す。店舗2階部分にある約100平方メートルを「みなくる☆そのだ」として開放する。市民講座を提供する尼崎市や市社会福祉協議会、在宅介護などの福祉事業を展開するNPO法人愛達といった団体が時間に応じて拠点を活用し、社会貢献活動を展開していく。今後も活動の公共性が高い事業者を募り、運営団体を増やす。コープこうべは3月に改装開業を予定する大型店「コープデイズ豊岡」（兵庫豊岡市）でも同様の活動拠点を整備するなど、今後も対象店舗を広げていく予定だ。

（日本経済新聞 2月24日）

認知症でも旅の楽しみを NPO事業化へ

安曇野市のNPO法人「安曇野オレンジカフェまちづくりネットワーク」は4月、認知症患者や家族らの旅行を介助する事業を始める。年齢や障害の有無に関係なく楽しめる観光「ユニバーサルツーリズム」を目指す。24日は研修として諏訪市のRAKO華乃井ホテルで、重症心身障害者の藤原圭汰さん（26）の入浴を介助した。介護福祉士で同法人代表理事の妹尾洋人さん（53）が、松本市の市民団体を通じ、藤原さんに協力を依頼した。同ホテルは藤原さんが修学旅行で訪れた思い出の場所という。ユニバーサルツーリズムの普及を目指す団体「ユニバーサル・サポートすわ」（事務局・茅野市）の5人が介助に加わった。妹尾さんは、エアマットの上で藤原さんの全身を手洗い。その後、藤原さんと一緒に温泉に漬かりながら髪を洗い、約40分の入浴を終えた。藤原さんの母、恵喜子さんは「初めてできてよかったが、息子は穏やかな表情でリラックスできたと思う」と話した。妹尾さんは2016年に法人を設立し、認知症患者の家族らが介護の悩みを語り合う場「オレンジカフェ花水木」を安曇野市内で運営。利用者から「家族全員で旅行を楽しみたい」という声を聞き、旅行の介助を思い立った。妹尾さんは「介助の手があれば、障害がある子どもがいても家族旅行ができる可能性がある。事業を通じてユニバーサルツーリズムの普及に努めたい」と話していた。

（信濃毎日新聞 2月25日）



着物で若松散策を NPOレンタル

古い街並みや建物が残る城下町、会津若松市を着物姿で散策してもらおうと、市内のNPO法人「素材広場」（横田純子理事長）が4月、着物レンタル事業を始める。伝統素材「会津木綿」で仕立てた着物を用意。外国人観光客や若者に会津の文化のすばらしさを伝え、誘客につなげる。地元の酒や食材などを組み合わせた観光コースも提案しており、「着物で地域を活性化させたい」と意気込んでいる。利用者は事前予約し、6時間借りられ、着付け用小物や巾着など一式をそろえた。基本の「楽セット」は6000円から。

（毎日新聞 2月23日）

犬の保護NPOから犬12匹逃走？

犬の殺処分をゼロにする活動に取り組むNPO法人ピースウィングス・ジャパン（PWJ）、広島県神石高原町近田）の犬舎（同町相瀬）で、20日夜から21日朝までの間に犬12匹が逃げ出した。21日午後7時現在、1匹は收容していた犬舎の一室のドアが開き、4匹しかいないことにスタッフが気づいた。前日午後7時ごろに施設に回ったが、確認が不十分だったとみられる。逃げ出したのはいずれも体長1メートル未満の雑種。PWJは、犬が人をかむといったトラブルを防ぐため、町に連絡。町は有線端末を通じて各家庭に知らせ、児童生徒がいる保護者には緊急メールで注意を呼び掛けた。PWJは2012年から犬の保護活動を本格的に開始。16年からは広島県内で殺処分予定の犬をゼロにする活動に取り組んでおり、県動物愛護センター（三原市）などから引き取った犬を広島、岡山県の計4カ所で飼育。新たな飼い主が見つかるまで飼っている。今回犬が逃げ出した犬舎では1500匹程度を飼い、スタッフ約20人が管理していた。

（山陽新聞 2月22日）

寄付で空き家診療所再生へ 茨城

関東・東北豪雨（2015年9月）で浸水し、空き家になっている常総市水海道橋本町の診療所を再生させようと、NPO法人「茨城NPOセンター・コモンズ」が寄付を募っている。水害で増えた空き屋を活用し、ひきこもりがちな高齢者が集う場所をつくるのが狙いで、「えんがけハウス」と名付けることを決めた。16日、現地では生活協同組合マリシステム茨城による寄付（500万円）の贈呈式が行われた。計画実現には約6000万円必要な見込みで、さらに寄付を呼びかけている。空き家になっている旧「片野醫院」は約500坪の敷地に、築約100年の木造家屋と増築した住宅、診療所の計3棟がある。広い庭には桜や梅の木が植えられ、春には花を咲かせる。豪雨の前日まで診療していたが、周辺が浸水。経営者はその後、亡くなり、空き家となった。同NPOは豪雨後、「たすけあいセンターJUNTOS」を同市に発足。被災者の支援活動を続ける中で、「高齢者たちが気軽にお茶を飲んだり、市外に転居を余儀なくされた人が時に戻れる場所が必要」（横田洋代表理事）と考え、同院院の活用を思い立った。計画では、診療所にかフェや障害者の作業所を置く予定。築100年の木造家屋は、4畳ある1階の大広間を多目的スペースに、2階は宿泊場所にする。増築棟は同市に多く住む外国人の子供と日本の子供と一緒に見る多文化保育に使う。増築棟は改修をほぼ終えており、多文化保育は今春から始める予定。費用は土地建物の購入、改修にそれぞれ約3000万円の計約6000万円かかる見通し。高齢者の交流施設整備などを対象とした国土交通省や県の補助金（計240万円）のほか、融資（約2500万円）も受ける計画で、残り約1500万円は寄付・出資を募っている。

（毎日新聞 2月17日）

公益総研株式会社 主席研究員兼CEO
公益財団法人公益推進協会 代表理事
(特非)国際ボランティア事業団 理事長 福島 達也



平昌（ピョンチャン）オリンピックも無事に終わった。

お隣の国だから珍しく寝不足にならなくて済むオリンピックなのはありがたいもので、競技を心置きなく楽しんだ人も多かったことだろう。しかし、このオリンピックのハイライトは何といっても、スピードスケートの小平奈緒選手ではないだろうか？

金メダルを取ったことはもちろん素晴らしいが、それよりも彼女の金メダル確定後の行動が素晴らし過ぎる！

今まで、オリンピックに限らず、たくさんのスポーツ競技を見てきたが、過去最高のシーンに巡り合えた気がした。

その行動とは、スピードスケート女子500mで小平選手が金メダルを獲得した直後のことだ。開催地・韓国の国民的英雄である李相花（イサンファ）選手の「五輪3連覇」が未完に終わった瞬間、小平選手の金メダルが確定したわけであるが、日の丸を肩に掛け、歓喜に浸りながらウイニングランをしていた小平選手が足を止めたのは、韓国国旗（太極旗）を手にしながら泣きじゃくる李の姿を見つけたときだった。小平選手は神妙な顔をして李選手のそばにそっと近づき、なんと彼女を労わるような表情でギュッと李選手を抱きしめたのだ。その時、「チャレツソ（韓国語で『よくやった』の意味）、サンファ、たくさんの重圧の中でよくやったね。私はまだリスペクトしているよ」と彼女にささやいたらしい。李選手も小平選手に「ナオこそ『チャレツソ』よ」と返し、小平選手にしがみついたのだが、こんな行動は今まで見たこともない光景だった。うれし涙にくれる優勝選手をコーチや監督が抱きしめるのはよく見るが・・・もともと彼女たちは仲の良い友人だったと後から知ったが、それにしても小平選手の行動は前代未聞のことではなかっただろうか。優勝した選手が、2位の選手を抱きしめて慰め、お互いをねぎらうなんて・・・。

私が最もびっくりしたのは、その時、小平選手が全く笑っていなかったことだ。

悔し涙にくれる娘を温かく抱擁して慰める母親のように、一緒にたたずむ彼女の眼は優しいまなざしだったが笑顔ではなかった。どうして幼少期から31歳まで苦労の連続で、初めてオリンピックで念願の金メダルを取った選手がニコリともしないで、敗者を労われるのだろうか・・・これが逆だったらどうだったか、皆様に想像はつくだろう。

韓国選手に限らず外国選手というのは、ほとんどの場合、金メダルを獲得した瞬間、気が狂ったように喜び、横でがっかりと肩を落とす2位以下の選手の横を駆けずり回ってはしゃぎまわるのだ。そんなシーンは毎度おなじみの金メダルシーンである。

だが、小平選手は違った。うれしい気持ちをグッとこらえて、はしゃぎもせず、なぜ敗者の気持ちになれたのだろうか・・・。

そう、これこそが日本人の最も得意とする「謙虚さ」「つつましさ」「奥ゆかしさ」「遠慮深さ」なのだ。

だが、これは日本人だけのものであり、外国人は理解できず、むしろ否定的に受け取るのだ。海外では、日本人が美德とする謙虚さ、つつましさ、奥ゆかしさ、遠慮深さは、単に表面的につくろって、暗黙で何かを求めている卑しさ、または、ストレートにものをいえない自信のなさを表しているときみなされるのだ。

例えば、プレゼントした後に「つまらないものですが・・・」とあなたもよく言うだろう。外国人の前でそんなこと言ったら大変だ。きっと「そうですか」と言って、そのままごみ箱に捨ててしまうだろう。

よくあるのは、ビジネスプレゼンテーションなどで終わった後に「つたない説明で申し訳ありませんでした」などと日本人は必ず謝るが、これも危険だ。謝ったということは、ろくに勉強も研究もせずにプレゼンをしたのかとたしなめられ、聞く側にかえって不快感を抱かせてしまうからである。日本人なら、そのあとに「いや、そんなことはありません。分かりやすく立派でしたよ」とほめ言葉が返ってくることを期待したいところだが、外国の人は、そのまんまに受け取ってしまうのだ。

さらに、そんな日本人同士のコミュニケーションをそのまま外国人相手に持ち出し、とんでもない誤解が生じるケースもある。家族が親しみを込めて自分の娘の旦那さんとなった新郎に対し「どうしてこんな子を選んだの？ 何の取り柄もないのに」と言ったとする。娘は、それを侮辱ととらえず、笑って聞き流すだろう。しかし、日本人なら理解できる場面だが、外国人にとっては言葉通りにとって家族で娘を侮辱していると見てしまうのだ。

なぜ、日本人だけが特別なのか？

それは、日本人同士のコミュニケーションでは、島国同族の村社会的慣習が前提となっているからなのだ。

日本人は、ストレートに言うことで、不要な対立を招くのを避けるために自然と謙虚にへりくだったりする習慣がついているのだ。あまり自己賛美をすると、いやがうえでも狭い社会で接する相手に対して、いざ対立が起こり険悪な関係になっても簡単に逃れられないから・・・大陸の多民族社会とは、そこが違うのだ。

彼らの社会では、はっきりと言わないと通じず、曖昧にしたり、回りくどい表現をすると誤解が生まれ逆に対立を招くことになる。そんなことを心に留め、外国人と接するときは注意を心がけたいものだ。

とはいうものの、小平選手の「謙虚さ」「奥ゆかしさ」は見ている気持ちが良かった。

私は、あのシーンを何度もネットで見ても、幸せな気分には浸っているのだ。誰かとけんかしても、きっとあのシーンを思い出すことで、反省し、優しくなり、気持ちも落ち着くことだろう。是非お勧めしたい。

さて皆さん。こんな私のつまらないコラムにいつもお付き合いいただき、本当に申し訳ありません。

大したコラムではありませんが、おめめ汚しに、またお付き合いいただければ幸いです・・・

編集後記

先日幅広い世代の人々が集まる会合に顔を出した際、一番ご高齢の70代の方が最近スマートフォンを使い始め、お孫さんとLINEで毎日やり取りをしていると楽しそうに仰っていました。新しい物は敬遠せず何でも受け入れる方で、何ならスマートフォンの使い方を教えてあげると冗談めかしてお話されていましたが、もしかするとそのうち本当に私の方が教えてもらう立場になるかもしれません。

(とら)